



AI-OCRの概要と導入することの メリットを徹底解説

富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

アジェンダ

この資料では、AI-OCRの概要と導入することのメリットについて、業種・業態ごとの導入事例を交えながら解説しています。

また、AI-OCRについてお困りのことがあったり、相談相手がないといった場合は、ぜひ当社にお問い合わせいただけたらと思います。現在抱えているリスクやお悩み、課題を解決するにはどうすればよいかなど、一緒に検討いたします。

[>>AI-OCRに関する相談やお問い合わせ](#)

この資料の目次

- 1 AI-OCRの概要
- 2 データ入力業務のよくある問題点
- 3 AI-OCRを導入することのメリット
 - 業種・業態ごとに導入事例をご紹介します
- 4 まとめ

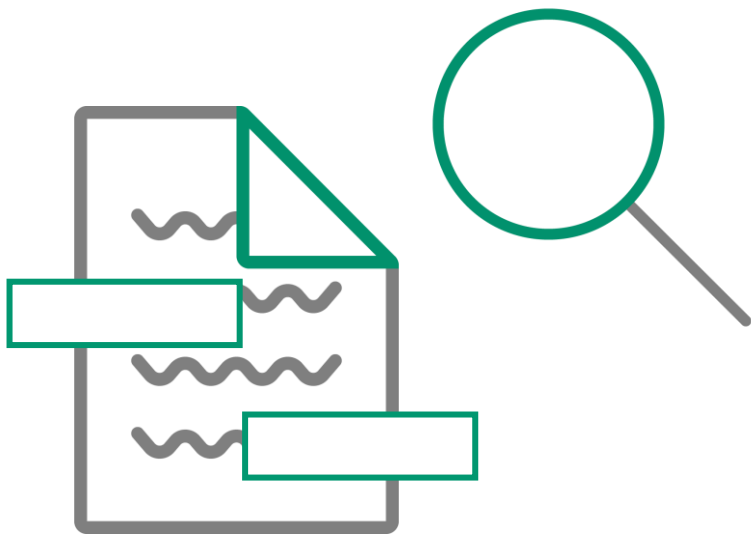


1 AI-OCRの概要

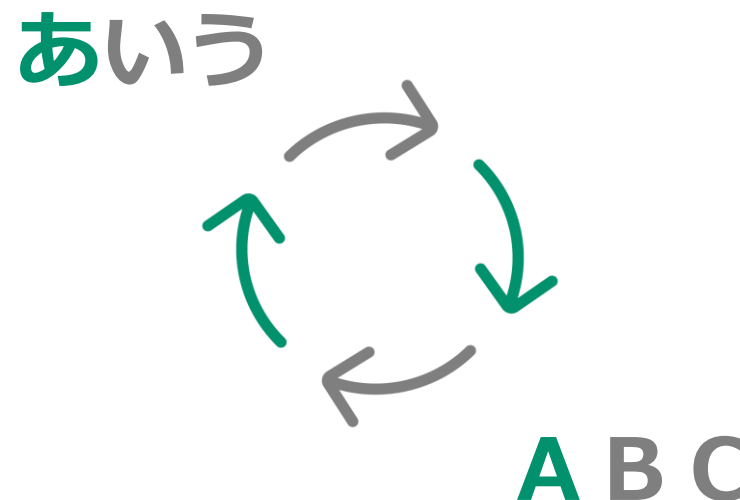
AI-OCRとは？

AI-OCR（Artificial intelligence-Optical Character Reader）とは、帳票・文書などの書面内に記載された文字情報を、自動抽出（データ化）するためのツールとなります。また、品目コードを商品名へと読み替えるといったケースのように、抽出したデータをマスタと突合して自動変換することが可能となります。

帳票・文書から文字情報を自動抽出



マスタと突合してデータを自動変換

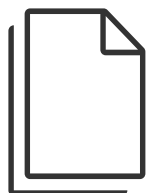


AI-OCRを導入することで、企業内の主に事務領域の自動化を実現することができます。実際にどのように文字情報が抽出されるのか、次ページで「AI-OCRを用いた文字情報の抽出イメージ」をご説明します。

AI-OCRを用いた文字情報の抽出イメージ

複合機などを用いて生成したスキャン画像を、AI-OCRツールで読み取ることで、帳票内に記載された文字情報を簡単にデータ化することができます。以下の読み取り結果の画面イメージは、当社が提供しているAI-OCRクラウドサービス「ApeosPlus desola」の例ですが、手書き文字も含めてデータ化されていることがお分かりいただけるかと思います。

帳票を
スキャン



確認訂正(1/1)

帳票ID: 20210819_0002 611a9D3a0a0n00009714a

項目

項目	スキャン画像読み取り結果	確認
納品年	2021年7月1日	☐
合計金額	115,500	☒
顧客名	サンプル株式会社	☐
顧客ID	C-001	☐
商品名	DocuWorks	☐

読み替え表による候補1

一時保存 キャンセル OK

手書き文字もデータ化

企業名

富士フイルム
ビジネスイノベーション
富士フイルムビジネスイノベーション

AI-OCRの上記の機能は、主に「データ入力業務（データエントリー業務）」の工数や品質の改善に効果を発揮します。次ページから、まずはデータ入力業務のよくある問題点をご案内します。

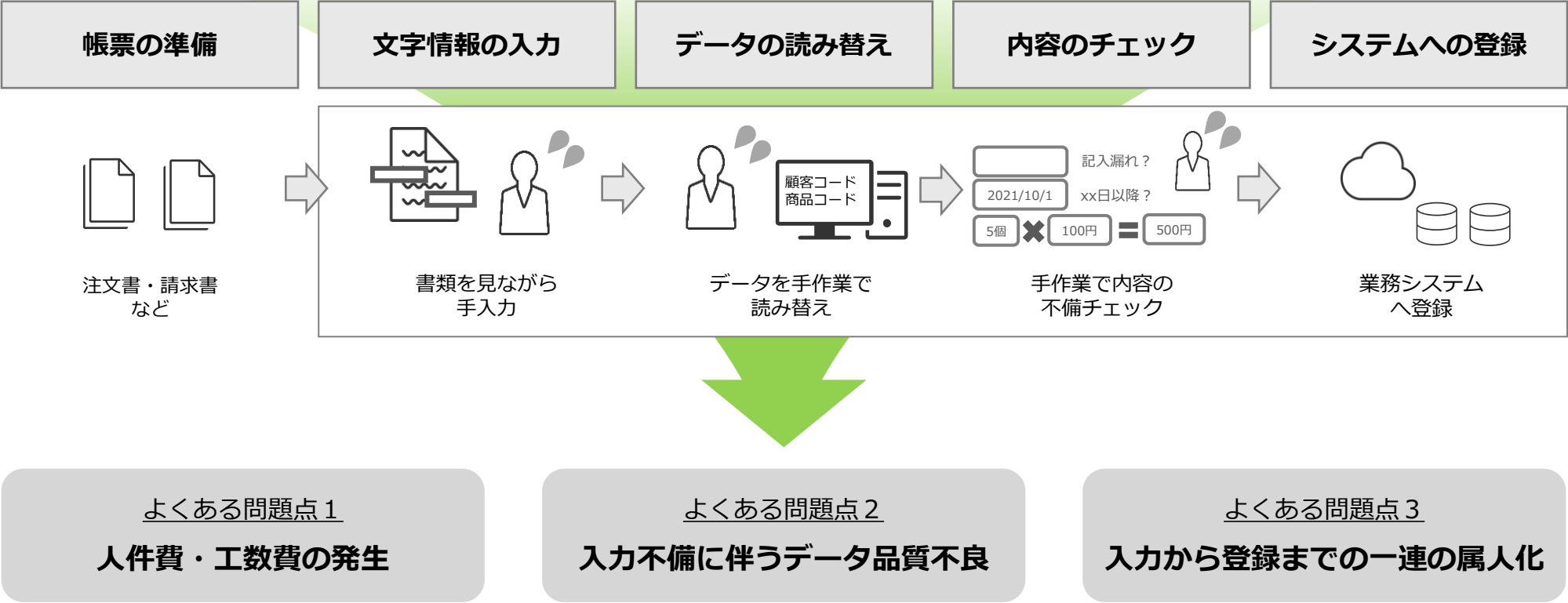


2 データ入力業務のよくある問題点

データ入力業務のよくある問題点

注文書や請求書に記載・記入された文字情報を販売管理システムにインプットする場合など、御社内で人手を介してデータ入力を行っている業務はありませんか？こうした作業には多くの工数が付きもので、また、目視確認のためにデータ不備につながってしまう懸念が伴います。また、工程が多岐にわたるため、属人化しやすい業務になります。

データ入力業務（データエントリー業務）



問題点の詳細例

人手を介したデータ入力業務には、工数や品質の面でさまざまな問題・課題が伴います。また、入力の対象が経営品質にも影響を及ぼすような基幹データであることも多く、不備を防止することへの心理的な負担も大きくなりがちです。

工程	作業内容	問題点の詳細例
文字情報の入力	✓ 対象帳票を確認し、文字起こし用のエクセルファイルなどに1文字ずつ手作業で入力	• 入力のスピードと正確性は、それぞれの担当者のスキルに依存する • 精度を担保するため、ダブルチェックで工数がかかる • 繁忙期にはヘルプ人員が他部署から来るが、その教育にも手間がかかる • パソコンがフリーズすると、途中から改めてやり直しとなる
データの読み替え	✓ 登録する業務システムのデータベースに合わせ、データを目視で読み替えし、変換内容を再入力	• 顧客名から顧客コードなどの読み替えに時間がかかる • 読み替え表は用意しているが、その突合を目視で毎回するのに工数がかかる • この部分はこう読み替える、などのように属人化する
内容のチェック	✓ 入力内容・変換内容に不備がないかを目視で確認	• 入力漏れや入力ミスなどのチェックに労力がかかる • 基幹データの不備は経営品質にも影響を及ぼすため、心理的な負担が大きい
システムへの登録	✓ エクセルファイルをCSV形式などに書き出し、業務システムにインポート	• 業務システムへのインポート作業に当たり、ITリテラシーも要求される • 誤ってエクセルファイルを消去すると、一から改めてやり直しとなる

こうした問題点は、AI-OCRの導入によって改善することができます。次ページから、さまざまな業種・業態でのAI-OCRの導入例と共に「AI-OCRを導入することのメリット」をご案内します。



3 AI-OCRを導入することのメリット

業種・業態ごとにAI-OCRの導入事例をご紹介します

導入事例（１）販売業：ファクスで届く注文書情報のシステム入力

こちらの事例では、「ファクスで受信した注文書のデータ入力業務」の自動化に成功されています。どの企業でも営業部門が存在すると思いますが、御社の営業事務や販売事務の領域でも以下のようなケースはありませんか？

< 問題 > 取引先1,000社からの注文書を手作業で入力し、手間と工数がかかっていた（繁忙期は増員して対応）

- 取引先単位に注文書のフォーマットが異なるため、ファクス受信後に手作業で仕分けており、人手がかかっていた。
- 各明細行の単価×個数が合計金額と一致しているかを手作業で検算しており、時間がかかっていた。
- 販売管理システムへの入力に多くの人手が必要で、月初・月末は人手を増やして対応していた。

< 改善 > AI-OCRの導入により、大量の注文書の仕分け・確認・入力にかかる工数を約1/3に削減

- 取引先ごとに自動仕分けしてくれるため、手作業が不要になった。
- 明細検算作業が、アラート箇所の確認と訂正だけで済むようになった。
- 処理後のデータはAPIで自動出力し、販売管理システムに連携されるため、販売管理システムへの入力作業が不要になった。

< 効果 > 繁忙期でも担当者だけで業務を完結

- 主要な取引先からの注文書を対象に導入したが、業務にかかる時間を確実に削減することに成功した。
- 繁忙期でも担当者だけで業務を完結できるようになった。
- 対象とする注文書の範囲を順次拡大し、さらに業務改善を行っていく予定。

導入事例（２）卸売業：500ページにわたる請求書情報のシステム入力

こちらの事例では、「大量ページの請求書のデータ入力業務」の自動化に成功されています。注文書と同様に、どの企業でも請求書は存在すると思いますが、御社の会計処理の領域でも以下のようなケースはありませんか？

＜ 問題 ＞ 数千行の明細を手作業で検算・確認・入力し、月末は残業続きとなっていた

- 1つの問屋と大量の取引をするため、1件の請求書が500ページにわたり、処理量が多い状況であった。
- 数千行の明細を紙に書き出して検算する作業や、請求元コードを確認する作業が大きな負担になっていた。
- 全ての明細情報を会計システムへ手入力し、時間がかかっていた。

＜ 改善 ＞ AI-OCRの導入により、請求書処理の業務全体にかかる工数を約1/4に削減

- 明細の検算作業が、アラート箇所の確認・訂正だけで済むようになった。
- 請求元コードを目視で照合する作業が不要になり、ミスもなくなった。
- 処理結果のCSVファイルは、会計システムに合った形で出力されるので、そのままインポートするだけで済むようになった。

＜ 効果 ＞ 担当者の残業時間をゼロにすることに成功

- 請求書の処理に於いて、経理担当者の作業を減らすことができた。
- 月末の担当者の負担を大きく改善することができた。
- 結果的に担当者の残業時間をゼロにすることができた。

導入事例（３）製造業：製品検査表のkintoneへのシステム入力

こちらの事例では、「製品検査表のkintoneへのデータ入力業務」の自動化に成功されています。御社でも業務システムでkintoneを活用している場合には、以下のような業務改善を得られるかもしれません。

＜ 問題 ＞ Excelでの検査結果データ管理は、時間がかかる上に属人化しがちとなっていた

- 製品検査票の内容をExcelへ手入力の上、Excelの関数で検査結果の異常値を確認し、一連の作業に時間がかかっていた。
- Excel作業のノウハウが属人化し、結果的に2人の担当者しか対応できず、負荷が集中していた。
- 紙の帳票はファイリングして保管していたが、取引先に提出を求められた際にすぐに探せ出せないときがあった。

＜ 改善 ＞ AI-OCRの導入により、製品検査票のデータをkintoneへ自動連携し、さらに誰でも対応可能に

- 異常値の確認作業がアラート箇所の確認・訂正だけで済むようになり、UIの分かりやすさから誰でも対応できるようになった。
- 処理後のデータは自動でkintoneのアプリへ連携されるため、kintoneへの入力作業が不要になった。
- kintoneのレコードに帳票が添付されているため、取引先から提出を求められた際にもすぐに探し出せるようになった。

＜ 効果 ＞ 業務負荷を平準化でき、さらに製品品質の向上を実現

- 限られた担当者に集中していた業務負荷を、他の人員にも分散させられるようになった。
- 入力に割いていた時間をデータ分析にあてられるようになり、結果的に製品品質を向上させることにつながった。
- ノンコア業務を削減し、コア業務へのリソースシフトに成功した。

導入事例（４）物流業：ファクス受信した配送伝票情報のシステム入力

こちらの事例では、「ファクス受信した配送伝票のデータ入力業務」の自動化に成功されています。御社でも取引先との帳票伝達でファクスを利用している場合、以下のような業務改善を得られるかもしれません。

＜ 問題 ＞ 配送伝票の手作業での仕分け・入力で、処理完了までに多大な時間を消費していた

- 業界慣習でファクスでのやり取りが多く、紙での依頼が大半を占めていた。
- 大量の受信文書を取引先ごとに手作業で仕分けの必要があり、入力作業に取り掛かるまでに時間がかかっていた。
- 配送管理システムへ手入力しており、多大な人手と時間がかかっていた。

＜ 改善 ＞ AI-OCRの導入により、配送伝票処理の業務全体にかかる工数を約1/4に削減

- ファクス受信した配送伝票が、ペーパーレスで取り込まれるようになった。
- 自動で仕分けされるため、人手による作業が不要になった。
- 処理結果のCSVファイルは、配送管理システムに合った形で出力されるため、そのままインポートするだけで済むようになった。

＜ 効果 ＞ 取引先への対応スピードが向上し、顧客満足度の向上を実現

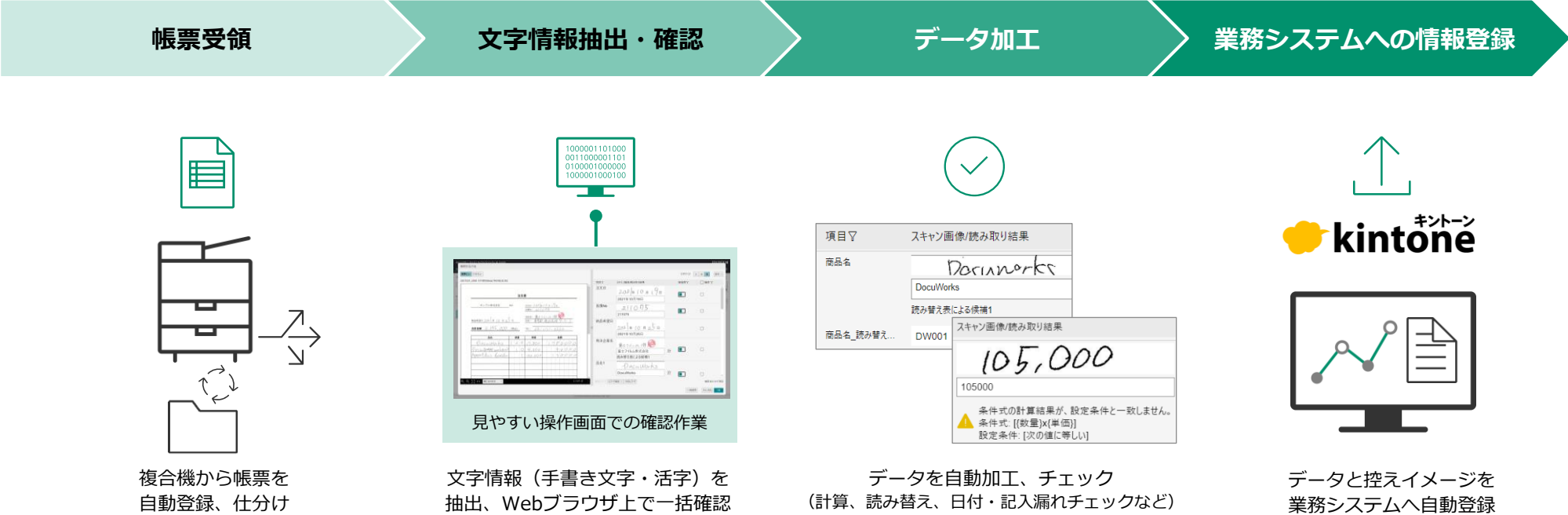
- 業務プロセスの多くの範囲を、自動化することができた。
- 対応スピードの向上について、取引先からもお褒めの言葉をいただけた。
- 結果的に顧客満足度の向上につながった。



4 まとめ

AI-OCRを導入することのメリット

AI-OCRを導入することで、データ入力業務のよくある問題点を解消し、一連の作業を自動化することができます。また、データ入力業務の工数や品質を大幅に改善でき、最終的には労務管理や顧客対応などの経営面にも有効な効果が期待できます。導入を検討されたい場合、ぜひ次ページを参照ください。



データ入力業務全体を効率化 約 **66%** 業務工数を削減！

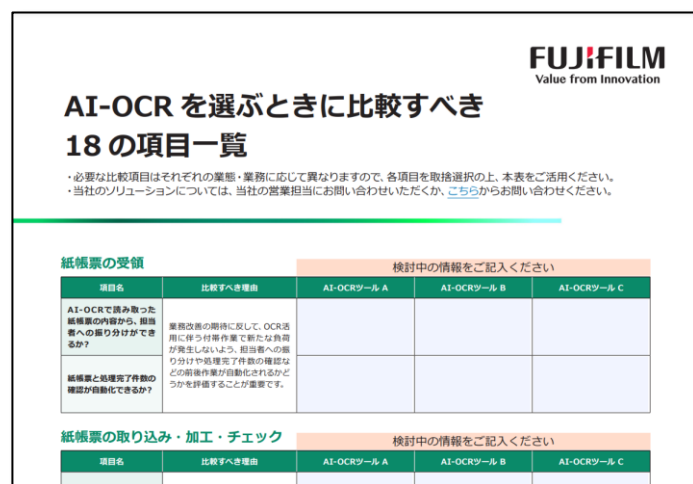


帳票受領から業務システムへの情報登録をワンストップで支援

AI-OCRの導入を検討されたい場合

AI-OCRの導入の検討を、サポートするための資料をご提供しています。ツール選定時にどのような観点で比較すべきかをまとめたチェックシート、及び、当社のおすすめるAI-OCRツールのご提案資料の二点を、以下よりダウンロードいただけます。製品のデモも可能ですので、こちらの[お問い合わせフォーム](#)からぜひ気軽にご依頼ください。

AI-OCRを選ぶ時に比較すべき18の項目一覧



[この資料をダウンロードする](#)

当社のおすすめするAI-OCRツールのご提案
～ ApeosPlus desola ～



[この資料をダウンロードする](#)

